

題名 臨港道路（浦添線）の整備について

那覇港湾・空港整備事務所
 第一工事課長 氏名 ◎吉平 健治
 第一工事係長 氏名 ○田中 克彦

1. 事業目的

那覇港は、沖縄県の物流の中心拠点港湾として、県の経済活動を支えているが、那覇港と本島中心部への連絡は慢性的な交通渋滞が発生している市街地を通過せざるを得ない状況である。そこで、本事業は、市街部をバイパスしたアクセスを確保することで、中北部方面への物流機能を強化し、圏域の経済及び産業活動を支援するとともに、国道58号等の周辺道路機能を補完し、中南部地域の渋滞緩和に寄与することを目的としている。

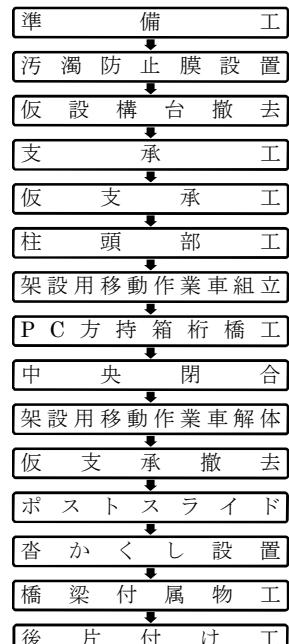
2. 整備手順

橋梁上部工の施工フローを右図に示す。本橋梁は、張出し架設工法が採用されている。張出し架設工法とは、橋脚より橋の中央に向かって2～5mのブロック毎に順次継ぎたし、張出していく工法で、張出した先端にはブロックを構築するための架設用移動作業車を配置して施工を行う。

この工法では、地上からの支えを必要としないため、建設する橋梁下の空間を侵すことがなく、地形や利用状況に左右されず安全に施工することができる。

3. 温度応力によるひび割れ抑制対策

本橋梁の柱頭部はマスコンクリートに該当し、温度応力によるひび割れが懸念されるため、温度応力解析を実施した。また、ひび割れ抑制対策としてパイプクーリングの実施を検討し、その効果についても解析を行い、実施工との比較を行った。その結果、パイプクーリングによる効果が期待でき、実施工においてもひび割れの発生は確認されず、その効果が十分にあったものと思われる。



4. 今後の課題

現在施工が行われている陸側の上部工工事については平成26年8月末、海側の上部工工事については平成27年6月末、浦添線全体としては、今後、舗装工および道路取付部等の施工を行い平成28年度末の完成を目指し、各工事の工程管理はもちろん、隣接工事との調整を密に行い、全体工程の遅れがないよう進めていかなければならない。

